



雪は天から送られた手紙である

教育支援アドバイザー 高坂 均

この素敵な言葉を残したのは、世界で初めて人工的に雪の結晶を作り出すことに成功した科学者「中谷宇吉郎」です。研究に没頭する生活を通して、「雪の結晶には一つとして同一のものがないということ、また雪の結晶を見るとその雪がどんな環境の中でどんな成長過程を経て出来たのかが分かるようになった」と言いました。

我々大人は、子ども達の言動をしっかり見つめ、その子の成長過程や個性を読み取る力を持ち合わせなければならないと思います。子ども達に心から寄り添い、教師として親として個に応じた指導・支援にあたれば、信頼関係が構築されるばかりでなく、子どもの秘めたる力を十分引き出し成長につなげることができると思います。そのためにも、常に、「褒める」、「共感する」という姿勢を持ち合わせる必要があります。

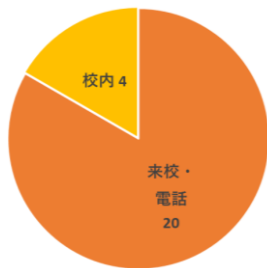
ところで、中谷宇吉郎の出身地の石川県加賀市に「雪の科学館」があります。新型コロナウイルスが収束し行動自粛が不要になった時には、是非出かけてみてください。素敵な雪の結晶に出会えますよ。また、時には袖に舞い降りたひとひらの雪に目を向けて見ましょう。



令和2年度

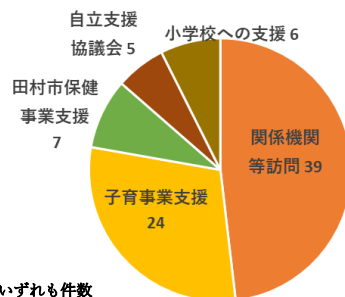
地域支援センター活動報告

来校（電話）・校内相談支援



※数字はいずれも件数

校外相談支援



今年度は、コロナ禍によりキラキラ教室を中止としたため、地域の方の来校や電話での相談が増え、相談内容の多くは、障がいのある幼児の就学についてでした。また肢体不自由だけでなく、発達障がいや医療的ケアに関する相談、関係機関等からの問い合わせも多くあり、右記の関係機関等訪問による連携も影響していると思われます。校内の相談は、4件ありました。保護者の皆様、お一人で悩まないで、どうぞご活用ください。

本校の児童生徒が、地域の支援を必要とする時にスムーズに支援体制が構築されるように、各地域の行政や保健機関等との連携に努めました。また、小学校からの支援依頼の多くは、肢体不自由のある子どもたちへの支援のあり方でした。今後も支援を必要としている子どもたちが、地域において一貫した教育支援を受けられる「切れ目のない支援体制」の整備・充実に向けて取り組んでいきます。

パラリンピックを応援しよう！

～ブラインドサッカー編～

ブラインドサッカーは、アイマスクをつけてボールの音と声のコミュニケーションで行う5人制サッカーです。

ピッチはフットサルコートと同じ大きさで、両サイドライン上に高さ1mのフェンスが並びます。4名のフィールドプレーヤー、晴眼者（視覚障害のない人）や弱視者のゴールキーパー、監督、ガイドの7名で行います。転がると音が出る特別なボールを使用し、ガイドがゴールの後ろから位置を教えます。「8、45、シュート」と言ったら、（距離）8m、（角度）45度、今のタイミングでシュート！の意味です。ボールを持った相手に向かって行く時は「ボイ」と声を出すルールがあり、声で危険な衝突を避けるようにしています。三者と選手同士が掛け合う声によって、勝負が大きく動いていきます。

絶妙な連携プレーやゴールキーパーとの駆け引き、力強いシュートは必見!!

